var. **kiusianum** Kitagawa var. nov.

Bupleurum scorzoneraefolium Willdenow f. *ensifolium* Nakai in Journ. Jap. Bot. **13** : 485 (1937) pro parte.

Ramuli vulgo crassiores breviores. Folia latiora breviora obtusioria oblonga-late linearia apice obtusa-obtusissima mucronulata ad 11cm. longa ad 15 mm. lata.

Nom. Jap. *Kyûsyû-saiko*. (nov.) キウシウサイコ．

Hab. Japonia : Kyusyu : Prov. Buzen : Sei-do-jo (S. Hamada Oct. 1905) ; in monte Kawaradake (S. Yosioka n. 39 Sept. 4. 1938—Typus ; n. 4 Sept. 4. 1938). Hondo : Prov. Suwo : in monte Higasi-hoben-zan (J. Nikai n. 411 Oct. 16. 1892).

Area Geogr. Japonia austr.

ミシマサイコは葉が極めて細長く伸び，果實が球形な點で近似種とは明瞭な差異を有する。この葉の廣くなつた變種が九州，周防等に見受けられる。

○椰子の發芽（佐藤正己）

「名も知らぬ遠き島より流れよる椰子の實一つ」と藤村の詩に出てくる椰子は恐らくココヤシ（*Cocos nucifera* L.）であらうが，一般にココヤシの發芽や生育地帶に關して誤り傳へられてゐる點があるので，南方での體驗を記して參考に供する。

ココヤシの實は半年位海水に浸つてからでないと發芽しない，又その理由から生育地は海岸地帶に限られてゐる等と云はれてゐるが，これは誤である。適當な溫度と濕氣さへあれば海水に浸す必要もなく，土に植へなくとも空氣中で發芽するものである。ジャバ島のバイテンゾルフ市にある農事試驗場では，雨季になると棚を作り，それにココヤシの實を紐で吊して澤山ぶら下げて置き，自然に發芽させ，適當の大きさになつたものを始めて土地に植込むのである。乾季には土の中に植込み灌水する必要があるが，雨季には全く世話なしに發芽してくれる。斯樣なわけで，態々海水に浸したり，或は「思ひやる八重の汐々」を渡つて來たものを拾上げて植える必要もない。

比島はコプラの名產地であるが，その母植物のココヤシは海岸地帶にあるものよりは寧ろ內陸地帶に植栽されたものが利用される樣である。私が體驗した一例はルソン島中部のラグナ湖からルセナへ拔ける街道の途中にある小山で，全山ココヤシの純林で，この中を坦々たる自動車道路が通じてゐるが，全速力で走つても1時間位もかかる程であつた。恐らく同樣の栽培地が各所にあつて，巨額の椰子油やコプラを產出するのだと思ふ。

なほココヤシの發芽の過程は小倉謙先生が「ココ椰子異聞」と題して採集と飼育 2 卷 2 號に（1940）圖入で說明して居られるから，此處に蛇足を附する必要はあるまい。